

愛院大の牧野准教授 死生観テーマに講演

あま市などズームで開催

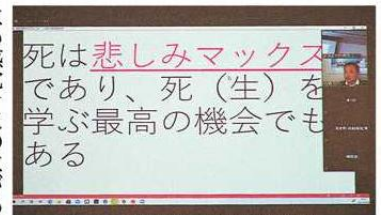
あま市とあま市民病院は六日、愛知学院大心身科学部の牧野日和准教授による講演会「エンドオブライフの食支援―食支援から死生学と人生会議を考える―」をオンライン会議システム「Zoom(ズーム)」で開いた。

言語聴覚士で、歯学博士、認定心理士でもある牧野准教授は、みどり期の人の最期の食事を支援し、家族の死生観なども育む「お食い締め」の提唱者。講演では人生の最終段階において、その人が大切にしていることや望む治療について家族らと事前に繰り返し話し合っておく「人生会議」の重要性を説き、そのタイミングや内容を紹介。

愛する誰かに自分史を振り返って語ることで、人生を前向きに捉えられ、みどり期の最高欲求である「最期まで皆に愛された実感」「死ぬことは無駄にはなら

ない感覚」につながると説明した。

講演会は当初、同市美和文化会館で開く予定だったが、緊急事態宣言を受けズームに切り替えた。市民ら約九十人が聞いた。



ズームで講演する牧野准教授＝あま市基日寺畦田の市民病院で